

会 議 録

公開・非公開 の別	〈開催日〉平成30年11月2日（金） 〈時 間〉17:00～18:00 〈場 所〉岸和田市役所 新館4階 第1委員会室	〈傍聴人数〉3人 〈傍 聴 室〉 岸和田市役所 新館4階 第1委員会室
公開		

〈 名 称 〉 平成30年度第2回 岸和田市公共施設マネジメント検討委員会

〈 出席委員 〉 ○は出席、■は欠席

足立委員	和田委員	伊坂委員	江口委員	田中委員	萩原委員	七野委員
○	○	■	○	■	○	○

〈 事務局 〉 総務部長：坂井部長
 公共施設マネジメント課：花田課長、岸本参事、上田担当長、玉井担当

〈 議 事 〉

1. 岸和田市公共施設最適化計画の推進について
2. 答申

〈 会議の概要 〉

- 議事①「岸和田市公共施設最適化計画の推進について」
資料1～5に基づき事務局から説明

委 員：資料3について、これまで過去のワークショップで難しい運営があったようだが、最終的に行政が主導して提案し、意見聴取していこうという事務局の考えに対してご意見をお聞きしたい。

委 員：平成28年度の春木駅周辺地区のワークショップにファシリテーターとして携わった。この地域にある公共施設30～40施設について、減築なのか、複合化なのか、廃止なのかを全てを考えていくのは変数が多く、一般市民主導では難易度が高い。さらに新設も想定して考えると無限の可能性があり、単なる思い付きで答えるのはできるかもしれないが、最適な解を求めるとなると、余程様々の数字のデータと考え方を行政が提供し、建築計画の知識経験のある市民でないと難しい。しかし、市民を入れることに意味がないのではなく、行政の発想が市民感覚と合っているかを確認するために、市民に聞くことはとても有効である。例えば、公共施設の機能をこういった建物で持たせることができるかといった、必要な機能の仕分けをすることなど、再配置という専門性というより普段のユーザーとしての市民目線で答えられるものがあると思う。市民に聞いて有効なもの、有識者に聞いて有効なものなど、場面によって使い分けていくと良い。

委員長：物事を決めていくための客観的な指標などは市民に公開し、理解してもらうというプロセスを行政として踏んでいくことが必要だと思う。

委 員：今後ワークショップを実施する際のポイントとして、前回のワークショップでは、事務局は情報を提供するとすぐ次へ進みがちだったが、ちゃんと市民がどこまで理解し納得できているのかを一つ一つ確認しながら進めていく必要がある。ワークショップは、市民にどういう情報を提供し、どういう問いかけをして考えてもらい、どんな回答をいただくかの対話のプロセスを設計することが大切になる。

事務局：反省点を踏まえて次回に活かしていきたい。

委員：市民として言わせてもらおうと、目的のハードルが高すぎるのではないかと思います。私も市民主導だと意見が発散してまとまらないと思う。ただし、考えるきっかけを与えるための情報を市民に伝えることが必要ではないか。施設白書などの情報は市から継続して発信していると思うが、プラス面だけでなくマイナス面の課題や問題点を提示することで関心を持ってもらうというアプローチもあると思う。施設が危険な状態になっているなどの現状について出前講座を行うなど地道な取り組みの継続が必要である。また、学校で児童に特別授業として公共施設の話をして理解してもらうことで、その親にも伝わっていく効果もある。子供の時から考えていくようなアプローチをしてはどうか。

委員長：何を優先するかなどの優先度の情報は市内だけでなく、こういった客観的なデータは市民にも提供していくことが良いのではないかと。

委員：市民側は公共施設を持ちつづけたいとか、自分達の使える施設を提供して欲しいという思いがある。一方で行政は適正配置を行いたい、場合によってはこの施設は無くてもよいと考える。市民と行政の間の意図のずれをどうすり合わせていくのが難しいと思う。このワークショップでいうと、適正配置の必要性が全体で理解できれば、個別の意見のすり合わせはある程度容易ではないか。適正配置がなぜ必要なのか。なぜこの地域なのか。この2つの必要性がまず腑に落ちないとうまくいかない。地域ごとの考え方をきちんと知ってもらうことが必要ではないか。よそで働いて帰って寝るだけの生活が主な地区と高齢者が多く住んでいる地区だと見え方が違ってくるので、今回はこの年代の人たちをターゲットにこの地区を何とかするための想定であるとまず説明が必要。その際にこれは基幹の施設だから必ずこの地域に配置するとした合意が取れたなら、市民から前向きな意見が出てくるのではないと思われる。そして、先ほども意見が出たように、市民の意見を聞いたなら、きちんと行政側も回答を返さなければいけない。

委員長：行政の中だけでなく、いろいろな手段で分かりやすく、市民に訴えかけるよう多面的に情報を流していく必要がある。なぜ適正配置が必要なのかそういったレクチャーのあとであれば、市民も納得せざるを得ない。統廃合をするときに、マイナスだけではなく相乗効果でプラスの部分もあり得るという事例などを紹介し地道にやっていくことが大事だと考える。

● 議事②「答申」

答申案に基づき事務局から説明

委員：全国の自治体の公共施設マネジメントを見て思うのは、質と量の2つの柱で構成されている。岸和田市も質と量の言わばハードの部分しか見ていないのではないかと思います。個人的には質と量にプラス「人」を含めるべきであると思う。「人」というのは、市民だけでなく、施設で仕事をしている人も含めている。市民やその施設で働く人も快適に過ごせて、施設が自分たちの建物であるという思いを抱いてもらえる様な研修や取組みを行うことで、市内の合意形成にも良い影響が出てくると思う。そういったことが市内で広まれば市民や関わる現場の人たちも、例え身を切る内容であっても、オール岸和田として施設のことを考え、さらには周囲の人たちにもその考えを伝えてもらえることもあるので、人づくりは大切である。

委員：施設を作ってサービスを提供していたのだから、施設を閉める時の行政の責任は重いと思う。その施設を長年利用し、愛着を持っている市民の思いを認めてあげるようなことや感謝の気持ちを受け止めてあげる気持ちが必要。それがあれば、岸和田らしさというものも出てくると思う。施設を統廃合するときに、単に事務的に進めるのではなく、今まで使ってもらってありがとうという感謝の気持ちが滲み出るような終末プロセスがあると良い。

委員長：質と量というハードだけでなく、そこを利用する人というソフトも考えていかなければならないという意見は大切なことだと思う。

委員：公共施設マネジメント課が出来て５年目を迎え、市民に向けても職員に向けても考えながら再配置等の検討をし、大変な部署であったと思う。経営資源にヒト・カネ・情報とよく言われるが、そこにファシリティの軸も入り、全庁的、長期的視点で動かしていくという市役所に今までになかった機能が入った。担当職員のみなさんには、引き続きそういった公共施設マネジメントという仕事の意義を思い返して仕事を続けてほしい。岸和田市では行財政再建プランの中で公共施設などを減らしていくことが検討課題で上がっているようだが、行財政再建プランの方で施設を減らす話をしてもらって、公共施設マネジメント課では新しい時代に合った施設でどういう活動や生活圏を新しくデザインするかなど夢を与えるような検討をし、庁内で役割分担をして最適化計画を進めてはどうかと思う。

委員：今委員が言われたように、残った施設や新しく更新する施設を決してマイナスにならずにクリエイティブで前向きに、どれだけデザインできるかに尽きると思う。そして、それを市民にきっちりと伝えることが大切である。なぜ自分の利用するこの施設が再配置の対象なのかと問われた時に、基準が示せるように、時間はかかるが丁寧に話してもらいたい。工事箇所１２０項目もの優先順位を付けるということは良いベースになると考える。市民と行政とが共有できるひとつの基準になると思う。

委員長：答申案について異論等はないようなのでこれをもって、市長に答申する。公共施設マネジメント課が出来て庁内を横断的に取り組めるので、今は良い体制だと思う。難しいことは多いが前向きに考えていくことと、今後もいろいろな手段で市民に情報を公開していくことが重要だと思う。答申により、一定の最適化への道筋が出来たと思うので、しっかりと公共施設マネジメントを進めていってほしい。

以 上

－ 以下余白 －